

公益社団法人 石川県言語聴覚士会

2023 年度 事業報告書

1. 言語聴覚士の技能及び資質の向上に関する事業

言語聴覚士としての知識・技術を高めるための支援として 21 研修会を計画したが、令和 6 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震により 7 つの研修が中止になった。

能登地区という地理的なことも考慮し Web 開催を主とし、令和 5 年 5 月 8 日より新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行されたこともあり、基本的な感染対策を実施しながらの参集による研修や実技研修も実施した。

また、他団体が開催した研修会へもオンラインで 7 名、現地へ 1 名の派遣を行った。

医療専門職（医師、歯科医師、看護師、理学療法士及び作業療法士等）、保健・福祉専門職（ケースワーカー、介護福祉士及び介護支援専門員等）、教育専門職及び心理専門職等と合同で、知識・技術の習得のための研修会は 1 つしか開催できなかった。

残念なことに能登半島地震の為 2 つの会員研修プログラムベーシックコース「高次脳機能障害」と「同職種連携」、石川県訪問リハビリテーション実務者研修会、地域 S T 研修会、石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会主催の研修会、石川 J R A T 研修会が中止となった。

助成（キャリアアップ支援）事業では 3 件の助成を行った。

新人育成のための研

- ・新入会員オリエンテーション 2023 年 6 月 4 日

方法：参集 場所：金沢市ものづくり会館

参加者合計：8 名（会員：8 名）

概要：日本言語聴覚士協会生涯学習プログラム・石川県言語聴覚士会会員研修プログラム等の概要や研修項目を中心とした説明、情報交換等を実施した。

- ・日本言語聴覚士協会生涯学習基礎講座 （事業費・会費）

日本言語聴覚士協会からの基礎講座用資料に基づき、臨床における基本的な知識を得られる講座で主に新人（免許取得後 1～5 年）会員を対象として行った。

- ① 「臨床業務のあり方・進め方」2023 年 9 月 2 日

方法：Web 研修 参加者：6 名（会員：4 名 会員外：2 名）

講師：1 名（会員 1 名）

概要と感想：この講座では、言語聴覚士の対象は小児から成人と幅広く、障害領域は言語、聴覚、嚥下、発達、認知など広範であること、臨床業務のあり方・進め方についても、対象や障害領域によって異なることを学びました。また、言語聴覚士法、言語聴覚療法の流れと留意点、臨床に必要な記録、言語聴覚士のタスク・シフト/シェア、リスク管理や安全対策について理解することが出来ました。

この研修を受けて、良い記録・文章は、伝達力を高め、目的・根拠のある訓練・指導を展

開し、質の高いリハビリテーションを実践出来るようになるのだと感じました。また、これにより、臨床経験が積み重なり、言語聴覚療法のEBMに貢献出来るようになることも学びました。臨床業務の中で記録は毎日書くものなので、今回学んだことを実践して取り組んでいきたいと思います。

② 「研究法序論」 2023年9月2日

方法：Web研修 参加者：5名（会員：4名 会員外：1名）

講師：1名（会員1名）

概要と感想：この講座では時代の進展とともに知識や技能、考え方は変化し、常に情報のアップデートが必要であり、その手段として研究があること、プロフェッショナルな臨床を行うには研究的視点が不可欠であるということを学びました。

今回の講座を受けるまで「研究」というと大学教授などが行う難しいものだというイメージがありました。しかし、研究は自分にも実践できるのでは、また患者様に適切なリハビリテーションを提供するためや自分自身の成長のために取り組んでいく必要があるのではと感じました。

まずは日頃から担当患者様と似たような症例を取り上げた研究がないか調べ、情報を収集するようにしていきたいと思います。また普段論文を調べる際はインターネットの使用が主でしたが、書籍での論文検索は自分では考えつかない方面からヒントを得られる可能性があること知り、活用していきたいと思いました。そして研究を行うにあたっては、カルテやカンファレンス記録などをしっかりと記載していくことが重要です。日々の業務を丁寧に積み重ねていくことが大事だと改めて感じました。

大変な面が多いとは思いますが、院内や学会への症例発表に積極的に取り組むなどして研究に携わっていききたいと思います。

・症例検討会 2023年12月22日

方法：Web研修 参加者：8名（会員：8名 会員外：0名）

発表者：1名（会員：1名 会員外：0名）

内容：「脳皮質下出血により失語症を呈した症例 - 環境による発話状況の改善 -」

技術向上のための研修

・日本言語聴覚士協会生涯学習専門講座 2023年7月22日

(事業費)

方法：Web研修 参加者：30名（会員：15名 会員外：15名内 JAS 以外1名）

講師：1名（会員外1名）

内容：「臨床を豊かにするための研究法（基礎編）－120分で症例報告の枠組みを書こう」

概要と感想：事前に word の準備と参考文献に目を通しつつ、自分の書きたい対象者を決めておく必要がありました。120分の講義の中で前半90分は、症例報告の枠組みを一つずつどのように書いていけばよいか丁寧に説明して頂きながら、その場で各自症例報告を書いていきました。後半では、投稿規定の確認や症例報告を出す手順、文献検索の仕方、文献の書き方、指導・協力者の大切さなど話を聞くことができました。

今まで症例報告を書く中で、どのようなテーマで書くのがよいか悩むことがありました。今回の講義で、症例で困った人や苦労した人は何かしらの新奇性があると思ってよいと話されており、また臨床的価値の視点など一步踏み込んだ目的の考え方も教えて頂き、症例報告が少し書きやすくなったと感じました。また、今回症例報告を書くうえで、足りない知識や情報が見えたこと、アウトプットしていくことが患者さんに還元できることもあるため、症例報告をしていくことや日々の中で先行研究や文献を読むことの大切さを知る良い機会となりました。

・第12回石川県言語聴覚学術集会 2023年11月5日 (事業費)

方法：Web研修 参加者：36名（会員：24名 会員外：12名）

発表者：4名（会員：4名 会員外：0名）

内容：「RISPを施行し、Verbal Activity Logの成績が向上した一症例」

「左側頭葉梗塞により聴覚失認が疑われた一失語症例 第二報」

「当院の小児言語療法の現状と課題

－小児科発達外来と就学支援における言語聴覚士の役割－」

「柳原40点法による予後予測に基づいてリハビリテーションを進めたBell麻痺の一例」

・日本言語聴覚士協会生涯学習ポイント対象研修会 2023年11月5日 (協会補助金・事業費)

方法：Web研修 参加者：36名（会員：24名 会員外：12名）

講師：1名（会員外1名）

方法：Web研修

内容：「失語症の理解のために—自動言語をめぐる話」

概要と感想：今年の特別講演は、失語症研究の第一人者である波多野和夫先生に四年ぶりにお話いただけるということで、大変楽しみにしておりました。

今回は言語の自動性という観点から、再帰性発話のような話者の意図に基づかない不随意的な発話、あるいは空語句などの意図の要素が薄弱な発話などについて、その失語学的な意味を詳しく解説していただきました。言語自動症・再帰性発話・言語常同症など、発話の例を挙げてご説明いただいたので、大変分かりやすかったです。

また、自動言語は失語症があっても生き残りやすいというお話や、空語句などはむしろ独り言に近く、この独り言というのがむしろ失語症研究にとって重要なのではないかというお話などは、特に興味深く拝聴しました。

各研究者のエピソードなども巧みな話術でお話いただき、大変面白く、惹き込まれました。四年前と同じく、失語症だけでなく言語そのものに興味が湧いてくるような刺激的な講演でした。貴重なお話をありがとうございました。

・地域リハビリテーションリーダー養成研修会 開催中止

※参加希望者、受講対象者が少数の為中止した。

・会員研修プログラムベーシックコース研修会

(事業費・会費)

① 「失語症」2024年1月28日

方法：Web研修 参加者：7名（会員：7名，会員外：0名）

講師：1名（会員1名）

概要と感想：初めに、私が本研修の受講を希望した思いとして、様々な患者様の評価を取り、その結果を基に訓練内容を立案し実施する中で、個々の患者様の症状を正確に評価すること、また背景情報を考慮し目標設定を行うことや訓練内容を立案・実施することの難しさを感じ、先生方の考えをお聞きしたく受講させていただきました。

講義では、リハビリテーションまでの流れ・評価・問題点の考察・訓練についてお話いただき、症例も2例紹介していただきました。

評価を実施する際には、どのような検査をどういった目的で実施するのか、また評価から得られた情報の解釈方法など、実際の症例を通しての説明がとても分かりやすく、参考になりました。また、目標に近づけていくために、詳細な情報を得ることの大切さ、個々の患者様に合った訓練内容の立案方法（特に難易度調整について）が印象に残りました。同時に、私は掘り下げ検査についての理解が不十分であったことや、SLTAを始めとする検査結果の解釈が甘かったと感じ、今後の課題を見つけることもできました。

最後に、本研修で学んだことを患者様のリハビリテーションに活かし、今後も臨床家としての学びを深めていきたいです。

② 「高次機能障害」 開催中止

※能登半島地震により中止した。

③ 「同職種連携」 開催中止

※能登半島地震により中止した。

・吃音相談・研修システム体制の運営（臨床施設調査、研修会、相談・紹介システム）

内容：吃音の臨床や支援等に関する研修及び相談・紹介に関する情報提供等を実施した。

『サポートブック』活用を吃音のある小児の指導・支援」

方法：Web研修 参加者：16名（会員：11名，会員外：5名）

講師：1名（会員1名）

概要と感想：研修では、吃音に関する最近の知見や吃音のあるお子さんの保護者の思い、吃音のあるお子さんとその保護者の方への対応の提案などを幼児期・学童期に分けて具体的に講義していただきました。また、現在小林先生が研究していらっしゃる吃音サポートブックの紹介をしていただきました。吃音について情報が少なく不安に思っている保護者もいらっしゃることから、サポートブックによる吃音の情報提供は不安軽減の一助になりますし、お子さんの成長に伴い関わる幼稚園や小学校の先生方にも吃音やお子さんの言語状況について知っていただくことはとても重要と感じました。さらに幼児吃音臨床ガイドラインについても紹介していただきました。幼児に関わる各専門職や対応施設が連携・分業し、社会全体で

サポートできる体制 構築を目指すものだそうです。その中で ST は言語症状をみることで
できる専門職として指導や支援方法の引き出しを多く持つ必要があるとおっしゃってしまし
た。ST として常にアップデートしていかななくてはと、改めて感じました。

・地域 ST 研修会 開催中止

※能登半島地震により中止した。

関係団体と合同で行う研修会

・第 21 回北陸言語聴覚学術集会(福井県) 2023 年 10 月 22 日 (会費)

方法：参集 場所：福井県自治会館

発表者 8 名(会員：1 名 会員外：7 名)

内容：「表現能力の向上を目指し作文指導を行った人工内耳装用児の一例」

概要と感想：発表では、通常小学校に在籍するも知的に問題のある聴覚障害児に行なった作文の
指導経過から、幼少期に受けていた文字-音声法の効果や作文の評価項目を取り出して指導
を継続することで、作文能力の向上が可能であると考えられたことを報告しました。

現地で発表したのは今回が初めてで緊張しましたが、質疑応答などで他県の ST と情報交
換を行うことができ、貴重な経験となりました。ご指導いただいたことや準備期間を含め発
表を通して見つかった課題に向き合い、今後の臨床をよりよいものにできるよう更に自己研
鑽に努めたいです。

・石川県訪問リハビリテーション研修会(共催) 開催中止

※能登半島地震により中止した。

・石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会、

県リハビリテーションセンター共催の研修会 (事業費)

市町事業に係るリハビリテーション専門職育成研修 ①PTOTST 共通導入研修

2023 年 10 月 22 日

講演

『地域リハ推進のためにこれから行政とできること

～地域支援事業等を手段として「当事者が健康になる」に役立つセラピストに～』

方法：ハイブリッド(Web と参集) 場所：石川県リハビリテーションセンター 4 階

参加者：38 名(会員 3 名, 会員外 35 名：PT22 名, OT13 名)

概要と感想：今回のテーマは 2 つでした。1 つ目は「地域リハ推進のためにこれから行政とでき
ること ～地域支援事業等を手段として『当事者が健康になる』に役立つセラピストに～」
というタイトルで途中グループワークを挟みながら 90 分の講義を受けました。津山市役所
のこども健康部健康増進課参事の安原氏は行政マンであり、作業療法士であるため、「住民
が住民と住民で健康になること」を支援してきたとのこと。一番のポイントは住民の支援者
の支援を行うこと！とのことで、具体的な事例を通して多くの支援を学ぶことができました。

また、もう1つのテーマは、「地域で生活をしていくために必要な短期集中C型サービスのあり方～その人らしい生活に戻るために必要なこと～」ということで地域の実践を県理学療法士会の諏訪理学療法士より講義とグループワークを受けました。言語聴覚士は、実際は直接関わる機会は少ないのですが、地域住民がどのように地域で生活を継続していくことができるか？グループで話合うことで、知ることができ実践に結び付くのではないかと思いますもっとSTが活躍できる場があると良いと思うのですが、実際はSTの数も少ないのでうまく回らない現実があります。今後は、もっとSTが活躍できる場を作ることが目標です。

・石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会・主催の研修会 開催中止
※能登半島地震により中止した。

・石川 JRAT 研修会 開催中止
※能登半島地震により中止した。

他団体が開催する研修会への派遣

- ・失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修会 2023年10月21・22日 (会費)
方法：Web研修 参加者：4名 修了者：4名
- ・JIMTEF 災害医療研修会 2022年6月4日～7月10日 (会費)
方法：Web研修・現地開催 参加者：3名
修了者：ベーシック2名
：アドバンス1名
- ・診療報酬・介護報酬同時改定説明会 2024年3月16日 (会費)
方法：参集 場所：MEETING SPACE AP 日本橋ルームF・G 参加者：1名

助成

- ・キャリアアップ支援事業 (特定費用準備資金)
方法：Web研修と参集
申請者3名(会員：3名, 会員外：0名)
助成 3名
使用研修会名
① LSVT@LOUD 認定講習会
② 第16回 JIMTEF 災害医療研修アドバンスコース
③ 第16回補聴器講習会

2. 県民への言語聴覚療法等に関する講座開講及び情報の普及・啓発及び支援に関する事業

ア 言語聴覚療法が医療・介護・保健・福祉・教育の増進に寄与することを示し、関係団体等と連

携の上、県民に対し「言語聴覚の日」のイベントとして感染対策を行いながら、言語聴覚士の仕事を紹介するパネル展示を実施した。「川柳コンテスト」は、言語聴覚コミュニケーションや摂食嚥下に障害のある方や、その方のご家族、支援者の方に日常生活で感じたことを川柳にして発表していただき、会場とHP上で投票を呼びかけた。

また、「読み書き障害の理解と学習支援」と題し県民公開講座を、県立図書館だんだん広場で開催し、会員22名を含めた84名の方が参加された。

毎年開催される介護フェスタでは、ブース出展を行い体験・パネル展示・相談会を実施した。

(株)日本医療企画によって作成される高校生・中学生に向けた職業紹介情報誌へ言語聴覚士の職業紹介「お仕事まるわかり辞典」2024年度版への寄稿を行った。

昨年度より初めた、当会主催の『小児教育相談会』を2回(計12名の相談者)実施できた。

今年度も石川県より委託を受けて失語症者向け意思疎通支援者養成事業として、『失語症者向け意思疎通支援者養成講習会』を「新型コロナウイルス等の飛沫・接触感染対策マニュアル」に沿い当事者講師も交え合計40時間(全9回)開催し13名が修了(令和4年度開始6名・令和5年度開始7名)し「失語症者向け意思疎通支援者」が誕生した。残念なことに能登半島地震により失語症カフェ・失語症者向け意思疎通支援者フォローアップ研修会の開催が中止となった。

・「言語聴覚の日」のイベントを開催 2023年8月20日 (会費)

場所：学びの杜 ののいちカレード オープンギャラリー

内容：パネル展示・川柳コンテスト

参加者：8名(会員8名)

一般来訪者：55名

開催報告：2007年より始まった「言語聴覚の日」のイベントも今年で17回目となりました。今年も、昨年と同様に、学びの杜ののいちカレードにて開催させていただきました。今回は8月第3日曜日の開催で例年よりも1週間早かったためか、夏休み中の子供の図書館利用者が多く、昨年度よりも来場者が増えました。また、ギャラリー入口にのぼりを立てたことで、イベントを目立たせることも出来てそれも増加の要因の一つかと思えます。

相談内容は、発話に関する事や難聴に関する事などがあり、「所属先施設一覧」や「相談先の探し方」をお伝えしましたが、より具体的な回答ができると良かったのではないかとスタッフから反省が聞かれました。

・川柳コンテスト (会費)

方法：県内外へメール等にて募集を行った。

投票は言語聴覚の日のイベント会場と当会HP(Web上)で行い9月末にHP上・ニュースレターで結果を報告した。

募集期間：2023年6月19日～7月30日

投票：2023年8月20日～9月10日

結果報告：2023年9月末日

作品数：応募総数124句 掲載数63句

表彰：金賞 1名 よく噛んで 昔は子へと 今子から
銀賞 2名 誤「嚙」断ち 健康寿命と 「縁」結び
補聴器を かけて復活 地獄耳
銅賞 3名 リハビリは 甘えず焦らず 諦めず
ことばにも トロミをつけて 食介助
滑舌を 良くする活舌 励んでる
入選 5名 会話中 耳と心を 近づける
補聴器の 要らぬ元気な 孫の声
話そうよ 気持ちはきっと 解るから
聞こえない 心の声は 聞こえてる
ありがとう 手のひら叩く 笑う妻

開催報告：川柳コンテストは、全国からたくさんの方々に応募してくださり、どの作品も素晴らしいものでした。

今年度も広報部の方で選定しましたが、昨年度より少し増やし 63 作品を見栄え良く・見やすい展示を行いました。今年度の反省から、次年度はお一人の応募数の上限を決めさせていただきより多くの方々に応募して頂きたいと思います。

また今回は小学生も多く来られていたので、次回掲示の際には「振り仮名」を付けることも検討していきます。

お忙しい中、川柳コンテストの応募に協力してくださった皆様、告知に協力していただいた皆様、どうもありがとうございました。

・金沢市「第 44 回健康づくりフェア」 2023 年 9 月 23 日～24 日 (会費)

会場：金沢健康プラザ大手町東館

内容：「簡易的な聴力検査」と「お口まわりと滑舌相談」

参加者：6 名（会員 6 名）

来訪者：132 名（23 日：78 人，24 日：54 人）

概要と感想：金沢市健康づくりフェアが 9 月 23 日、24 日の 2 日間の日程で開催されました。今年のテーマは「発見！未病 健診がチャンス」ということで、健康相談や体力測定、内蔵脂肪量チェック、フレイルチェックなどさまざまな催しがありました。そんな中で当言語聴覚士会では、お口まわりと滑舌、聴力測定と聴力についての相談を受けました。2 日目には、お口のフレイル予防についてのミニ講座も行いました。特に聴力検査は好評で検査を待つ列が出来るほどでした。2 日間を通して 130 名超の方が当会のブースにいらしていただき、市民の皆様の難聴、特に加齢性難聴に対する関心の高さが分かりました。また、当会に少しでも関心を持っていただけたのではないかと感じた 2 日間になりました。

・2023 年度いしかわ介護フェスタへのブース出展 2023 年 11 月 4 日 (会費)

会場：石川県産業展示館 3 号館

開催時間：10：00～16：00

内容：体験・パネル展示・相談

参加者：4名（会員4名）

来場者：約100名

概要と感想：石川介護フェスタに参加しました。石川介護フェスタとは、「介護」をテーマに介護に関わる職種や企業が各々のブースに分かれ、参加・体験型のイベントを通し、介護に対する理解を深め、介護のイメージアップを図る事を目的としたものです。言語聴覚士会のブースでは、言語聴覚士の概要や各障害別のパンフレットを設置、言語障害の症状等をプロジェクターを使用し放映、脳トレやパズルの体験コーナーを設けました。「脳トレやってみよう」と積極的に参加されたり、親子でパズルに取り組まれる方もおられ、親御さんから「言語聴覚士ってどんな仕事？」、「昔、子供がお世話になって」と声をかけて頂く事がありました。また、金城大学や県立看護大学の学生さん達もブースに寄って下り、これから一緒に働く若い方にも言語聴覚士の仕事について少しお話しすることができました。今後も、気軽な雰囲気の中で、私達の仕事を知ってもらえる機会があると嬉しいです。

- ・「お仕事まるわかり事典」204年度版への寄稿 2023年12月 （会費）
内容：（株）日本医療企画によって作成される高校生・中学生に向けた職業紹介情報誌へ言語聴覚士の職業紹介文を寄稿
STの紹介：会員1名執筆
寄稿：広報部

- ・県民公開講座 2024年2月11日 （会費）
「読み書き障害の理解と学習支援」
方法：参集 県立図書館だんだん広場
参加者：84名
（会員22名、会員外62名：OT1名・Ns2名・保育士6名・教職員23名・社会福祉士1名・保護者16名・小児科医1名・相談員2名・その他10名）
講師1名（会員外1名）

概要と感想：今年度の石川県言語聴覚士会主催の県民公開講座は、「読み書き障害の理解と学習支援」ということで、読み書き障害の定義や判定方法、支援の方針、特別支援教育の対象と学校制度などについてお話いただきました。

特に、「読み書き障害」とは「字が読めないわけでも、字が書けないわけでもなく、スラスラと正確に読み書きが出来ないことである」というお話は、「読み書き障害」を理解する上で大変分かりやすかったです。

「読み書き障害」と聞くと、どうしても読み書きが流暢に出来るようになることを目標に定めたくになります。私も当講座を受講するまでは、読み書き障害の目標は出来るだけすらすらと読み書きが出来ようになることだと考えていました。しかし、当講座にて文字はあくまでも学習の道具であり、目標とすべきは、あくまでも他の子どもと同じ学習が出来るように支援していくこ

とだと教えていただき、目から鱗が落ちました。

最近では、音声付き教科書やデジタル教科書など、読み書き障害に役立つものが色々と開発されています。これら支援に役立つものについても情報を集めながら、今後さらに読み書き障害への学びを深めていきたいです。

・小児発達相談 ①2023年7月9日 ②11月26日 (会費)

会場：ものづくり会館

内容：内容：3～4歳児のことばの遅れ等の相談

①参加者：4名（会員4名） 相談者：4名

②参加者：6名（会員6名） 相談者：8名

概要と感想：ことばの発達相談会では1人50分ずつ相談に応じました。運営担当が集合場所で体調確認と検温を行い、スムーズに案内することができました。今回は担当者がそれぞれ個別に相談に応じた形となりましたが、主訴と診断名が異なるお子さんがいたり、相談会の部屋へ入室できないお子さんがいたり等、1人で対応することに苦慮されました。

また相談に来られる保護者さんは、普段の仕事でお会いしている保護者さんよりも診断、各種申請など経験されていない可能性もあり、より配慮しながらお話する必要性が感じられました。相談事業は、県土会の小児領域発展のために、いろんな役割のある事業だと思っています。

会員同士が直接会うことで、情報交換、連携の良い機会になるだけでなく、相談事業に関わる新人、若手のSTさんを育てることにもつながると思います。今後も小児の相談事業に携わるSTを増やしていけたらと思います。

・失語症者向け意思疎通支援者養成事業（石川県委託事業） (事業費)

①失語症者向け意思疎通支援者養成講習会（計9回開催）

開催日：8月6日・20日・9月3日・16日・10月1日・15日・29日・11月11日・26日

(計9回開催)

場所：金沢市ものづくり会館 能美市防災センター

受講者：9名

講師：延べ17名（ST15名 PT1名 県職員1名）

スタッフ、チューター：延べ20名（ST15名）

当事者講師：延べ20名（15名）

修了者：13名（R4年度開始6名，R5年度開始7名）（失語症者向け意思疎通支援者）

講義内容：(1) 失語症とは何か

(2) 意思疎通支援者の役割、心構え及び倫理

(3) コミュニケーション支援

(4) 外出同行支援

(5) 身体介助

(6) その他、失語症者の意思疎通支援に必要な事項

失語症友の会会員当事者、会員以外の当事者の実習参加、意思疎通支援者の実習参加を行った。

開催報告：「令和5年度石川県失語症者向け意思疎通支援者養成講習会」は8月6日（日）～11月26日（日）の全9回の日程で開催されました。今年度は9名が受講され、必須科目を欠席された2名を除く7名が修了されました。また、昨年度修了出来なかった6名も受講され、今年度は合計13名の意思疎通支援者が誕生しました。

講義では、失語症の基礎知識、意思疎通支援者としての心構えなどについて学んでいただきました。実習では、STが失語症者役となり会話技術を習得した後、当事者の方を講師としてお招きし、個別または集団での支援を意識した会話練習を行いました。昨年度に引き続き、能美市防災センターにて外出同行支援実習を実施し、地震、119通報等の体験を、要点筆記を使いながら支援していただきました。

受講者のアンケートには、「会話の内容を聞こうとする姿勢が大切。その姿勢が伝わることで当事者の方が自分の思いや意向を表出しやすくなると思った」「当事者の方はどの方も魅力的な方で、より深く知りたい、楽しい時間を過ごしてほしいと思った」「当事者の方が話したいことが自分に馴染みのないことだった場合、答えに辿り着けないと気落ちした。日常生活の中でアンテナを張って知識を増やしたいと感じた」などといった感想をいただきました。また、当事者の方からも「もっと参加したい」などの声が聞かれました。

毎回、講義の終わりに受講者の皆さんから感想や意見を聞く時間を設けていますが、回を重ねるごとに表情が変わり、意思疎通支援者としての責任感を持って受講されている様子をひしひしと感じました。

来年度からは、意思疎通支援者の派遣事業開始に向けて、まずは失語症カフェの開催を考えているところです。今後も石川県失語症友の会や当事者の皆様、県との連携を取りながら精進していきたいと思っております。

② 失語症カフェ 開催中止

※能登半島地震に伴い中止した。

③失語症者の意思疎通支援者フォローアップ 開催中止

※能登半島地震に伴い中止した。

・会のホームページの管理運営

ホームページの更新、内容充実を図った。

メンバーリストの管理を行った。

イ 自治体や他団体が開催する研修会（オンライン）、相談会及びイベントに講師を派遣し、県民に対する専門職としての支援を行った。

・石川県立看護大学講義

- ・石川県失語症友の会例会
- ・志賀町リハビリテーション友の会 言語リハビリ教室
- ・金沢市フレイル予防事業、健康づくりフェア出展

概要と感想：金沢市フレイル予防事業は、金沢市から委託を受けた金沢・健康を守る市民の会が市民全体で健康長寿のまちづくりを図ることを目的に実施しています。この事業でフレイルトレーナーとして、フレイルチェックの実践、「学ぼう！フレイル予防」講座の講師、フレイルサポーター養成講座、フレイルチェック練習会等の活動を行ってまいりました。それに加え今年度はフレイル予防まつりが3回開催され、トレーナーはフレイル予防ミニ講座と、各ブースでフレイル予防相談会を行いました。健康づくりフェアにおいても、フレイルチェックのコーナーで、体験会を開催しました。このようなイベントを通して多くの方々がフレイルなど自身の健康に興味を持ってくださっています。フレイルチェックは、フルバージョンで行うことが可能となり各地域からチェックの開催要望が増えることとなりました。サポーター自身も実践回数を重ねるごとに、自身の体験をお伝えしチェックに来られた方々への勇気づけ、動機づけが上達していると感じています。トレーナーとしてサポーターの方々の後押しが出来るよう、今後も活動を続けてまいります。

- ・聞こえの相談会（5市町）

内灘町：8月30日、奥能登：9月22日、中能登：9月9日、11月30日

小松市：9月29日、白山市：11月9日

概要と感想：聴覚に障がいのある方やご家族を対象として日常の困りごとや補聴器に関する相談に応じる会で、これまでも各市町で実施されてきました。昨年度より県士会で講師依頼をお引き受けすることとなり、当会としてオージオメーターを一台購入し、相談会に持参しています。今年度は上記の5市町より依頼がありました。会場には要約筆記の方や補聴器相談センターの方も同席され、相談内容によって分担して対応されました。講師を引き受けていただいた会員の方々からは「きこえの相談ができる場があることが大切と感じた」という感想もいただきました。

- ・特別支援学校の医療等外部専門家との連携事業

珠洲：8月30日 輪島：8月30日 七尾：8月30日 明和：8月30日

ろう：8月30日 小松：8月30日 小松瀬領：8月30日

錦城：8月30日 盲：8月30日

- ・加賀脳卒中地域連携協議会
- ・2023年度学校教育連携担当者連絡協議会
- ・石川県在宅医療推進協議会
- ・金沢市教育プラザ総合保育巡回指導
- ・石川県理学療法士会 令和5年度 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業（七尾市）
- ・石川県理学療法士会 令和5年度 伴走型保険者支援事業 介護予防事業（珠洲市）
- ・野々市市発達相談センター講演会

3. 言語聴覚療法の研究・調査に関する事業

- ・相談局アンケート調査 2023 年 9 月 10 日～9 月 23 日

VE・VF 検査実施施設：15 施設（能登：3 施設 石川中央：7 施設 南加賀：5 施設）

VE 検査のみ実施施設：3 施設（能登：1 施設 石川中央：2 施設）

VF 検査のみ実施施設：2 施設（石川中央：1 施設 南加賀：1 施設）

訪問リハ実施施設：21 施設

	対応保険			対象	
	介護	医療	自費	成人	小児
能登	1 施設	1 施設		1 施設	1 施設
石川中央	16 施設	13 施設	2 施設	16 施設	2 施設
南加賀	3 施設	3 施設		4 施設	

- ・2023 年度小児 ST 情報交換会 2023 年 10 月 1 日

方法：Web で実施

参加者：11 名（会員 11 名、会員外 0 名）

内容：日本言語聴覚士協会令和 5 年度学校教育連携担当者連絡協議会参加報告、日本言語聴覚学会学校教育に関わる ST の集い参加報告、特別支援学校の外部専門家との連携事業情報交換と今後について話し合った。

4. 言語聴覚療法に関する刊行物の発刊に関する事業

- ・石川県言語聴覚士会年報の発行 2023 年 6 月 4 日

投稿者数：30 名

石川県言語聴覚士会 HP に 6 月 8 日 アップ完了した。関係団体には郵送した。

- ・ニュースレター（NL）の発行（年 4 回）

発行月：6 月 9 月 12 月 3 月

5. 関係団体との連携及び協力に関する事業

- ・石川県訪問リハビリテーション連絡会

開催日：2023 年 7 月 12 日

方法：Web 会議

内容：訪問リハ・地域リーダー会議報告、訪問リハ実務者研修会の研修の日程や内容について協議した。

- ・石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会

開催日：2023 年 6 月 22 日， 9 月 11 日， 12 月 14 日，

方法：参集 場所：県リハセンター

内容：県リハビリテーションセンターの協力を得て、地域ケア会議・介護予防事業に関する研修会の企画運営を行った。市町事業への協力者アンケートを実施した。

・災害リハビリテーション支援担当者連絡会

開催日：2024年3月12日

方法：参集 場所：県リハセンター

内容：石川 JRAT 役員と県の厚生政策課、長寿社会課、障害保健福祉課、医療対策課、県リハ事務局で、能登半島地震での災害リハ支援と復興リハビリ支援体制について協議した。

・能登半島地震の支援活動に関する会議

①2024年1月10日～

方法：Web 会議

内容：能登半島地震に係る石川県医師会等対策会議。

県内の医師会等医療関連団体の代表者で、災害支援に係る活動状況と現状及び方針について協議した。

②2024年3月22日

方法：参集 場所：県リハセンター

内容：復興リハビリ・地域リハビリ支援体制検討会議

日本理学療法士協会・作業療法士協会・言語聴覚士協会の会長及び副会長、日本 JRAT 本部長、石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会の会長で、復興リハビリ及び地域リハビリ支援体制の構築について協議した。

・石川 JRAT 会議

開催日：2023年5月24日、8月29日、2024年1月3日、4日、5日、6日、7日、8日

方法：Web 会議

内容：幹事会、小委員会が各々開催され、石川 JRAT 研修会の準備、県との協定に向けた策定作り、石川 JRAT 隊員の登録に向け、会長・副会長が各病院・施設への協力依頼を行った。

1月1日の災からは、対策本部、活動本部の立ち上げの為の会議が行われた。

・災害リハ WG（石川 JRAT）活動報告：2024年1月1日、能登沖を震源とする最大震度7の地震が発生し、家屋倒壊や土砂災害、津波などにより、能登地方全域に甚大な被害をもたらしました。

災害リハ WG は発災当日に余震や津波への注意喚起と同時に、会員の皆様の安否確認を実施。当初は8名ほど避難所に避難をされている方がおられましたが、ほぼ全員の無事を確認することができました。

また、発災3日後より石川 JRAT 活動本部の立上げに徳田会長を含め、幹事3名が参加。情報が錯綜し、石川 JRAT としても初めての本格的な活動をしなければならぬ状況の中、全国の JRAT 隊員の方々にも助けていただき、活動本部立上げ業務や実働派遣部隊の調整、石川県やその他関

係機関との調整のお手伝いをさせていただきました。

1月8日よりいしかわ総合スポーツセンターに「1.5次避難所、一時待機ステーション」が開設され、こちらには要配慮者が優先的に移動されてくるため、言語聴覚士としては主にこちらでの活動を中心に会員の皆様に災害支援活動に対する出動要請をお願いしました。活動本部、実働部隊での災害支援活動は2月時点で24名の会員の方に参加いただき、2月の後半からは、福井県富山県の言語聴覚士の方にも協力要請をお願いし、13名の方が参加してくださっています。

災害支援活動をしていく中で、食事に関する問い合わせが多くなってきたことから、1月20日よりミールラウンドを導入。避難者が安全に適切な食事を行えているかを評価し、介護チームや栄養士会などと連携し食形態の選定や食事環境の調整を行っています。

避難所でのミールラウンド導入は全国的にも初めての試みで、前例がない中、参加してくださっている会員の皆様よりご意見をお伺いし、修正を重ねながら運用しております。

また活動本部でも数名の会員の方にご協力いただき、本部ロジ機能に携わって頂いております。

避難所は縮小傾向にはあるものの、まだ先が見えていないのが現状です。また、今後は2次避難所や福祉避難所などでも要請が来るものと思われまます。災害支援の次のフェーズとしては、「地域で支えるにはどうしたらよいか？」ということを考えていく段階にきています。今後も数年にわたって災害支援ができるよう、石川県言語聴覚士会として皆さんで話し合っ、地域全体で能登の方々を支えていきたいと思っております。

- ・士会協会間の連携体制構築推進会議

開催日：2024年1月16日、2月20日、3月27日

方法：Web会議

内容：士会協会間の会員の一致化に向けた連携体制構築のための会議に委員として出席した。

6. 福利厚生事業

- ・会員懇親会・交流会 開催中止

※新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止した。

- ・企業展示 随時

内容：MLにて企業おすすめの動画（レシピ動画や商品の使用法のデモンストレーション、新商品のプレゼンなど）の配信を実施した。また、NLにも投稿した。

2023年6月4日：「定時社員総会」にて3社の商品プレゼンテーションを実施した。

2023年11月5日：「石川県言語聴覚学術集会」にて、2社がオンラインプレゼンテーションを実施し、7社が抄録集の巻末付録での商品PR掲載を行った。

- ・会員向け災害時安否確認

登録 通年 2024年3月31日現在129名が登録した。

その他：2024年1月1日 能登沖を震源とする震度7の地震の際全会員に向けて安否確認を行い、その後の状況の確認も実施した。

7. 組織の運営・管理

- ・ 定時社員総会 2023年6月4日
方法：ハイブリッド（Webと参集）
場所：金沢市ものづくり会館 2階研修室
出席者：110名（委任状：80名含む）/162名

- ・ 理事会 第1回 2023年4月23日・代表理事選定理事会 2023年6月4日（日）
第2回 2023年7月9日・第3回 2023年9月10日・第4回 2023年11月12日
第5回 2024年1月28日・第6回 2023年2月25日・第7回 2023年3月10日

- ・ 局・部・WGミーティング 適宜